



# 福岡視力センターだより

平成 28 年 3 月 2 日  
第 111 号

発行 福岡視力障害センター  
〒 819-0165 福岡市西区今津 4820-1  
(電 話) 092 (806) 1361  
(F A X) 092 (806) 1365

ホームページ  
<http://www.rehab.go.jp/fukuoka/>

印刷 社会福祉法人 福岡コロニー



## 卒業生に贈る言葉

### 「練習のもたらす効果」

#### 所長 後藤 英信

ご卒業おめでとうございます。皆さんのたゆまぬ努力の結果がこの晴れの日を迎えたものと心から敬意を表します。

さて皆さんがこのセンターで学んだ知識や技術は、あくまでも基本であることは、当然ながら承知していることと思います。さらに皆さんが進むべき道は厳しいものであることも、今更ながら申し上げるまでもありません。これから先、皆さんが不断の努力を積み重ねることで、今後の人生に大きな変化をもたらすものと私は確信しています。

ところで、自分の技能、技術を向上させるためには、日々の練習の積み重ねが、必要不可欠の要素と考えています。何よりも地道に確実に一步一步、継続して練習することです。この「練習」のもたらす効果というのは、明らかに存在すると思います。

その効果の一つが、「余裕が持てる」ということです。練習を続けることで、スムーズで洗練された技能が発揮できるようになります。慣れてくれば、

疲れないので、次にすることへの負担も少なくなり、余裕をもって取り組むことができるという効果があります。

もう一つの効果は、「安心を買うことができる」ことです。そのためには、なによりも練習量が必要です。基礎を固めるには、とにかく一定のまとまった時間を費やさなければ身に付きませんし、そこから大きな進歩もありません。それらをするので安心を買うと言う面ができます。つまり「これだけ努力したから、これだけ頑張ったから大丈夫だろう」という気持ちにすることです。更には、練習を続けることによって大切なことを忘れずに済むという利点も生まれてきます。

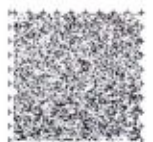
しかしながら、人生は常にうまく機能するとは限りません。挫折は避けることのできないものでもあります。挫折は新しい可能性の出現であると信じて、つまずいた時には、それを新しい可能性の出現であると受け止め、そして不敵にほくそ笑んで立ち上がるくらいの、根性で生きていただきたいと思います。

### 卒業生へ贈る言葉

#### 同窓会会長 楠原 宏和

不安と期待が交錯する中、センターに入所され早や3年の月日が過ぎ、失いかけた人生への希望と自信を再び取り戻し、卒業の日を迎えられた11名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。センターで学んだ専門知識や技術は勿論、日々の訓

練、恩師や友などが、今後の人生においてかけがえないものとして心に残っていくはずです。皆さんが進んで行かれるあはき業界は決して平坦な道ではありません。しかし、努力すれば必ずや道は開けます。今後の皆さんの活躍を期待しています。





## 卒業生からのメッセージ

### 3年A組

#### 池田 成樹さん(福岡県出身)

3年間お世話になりました。センターに来て本当によかったです。在所生のみなさん、国家試験までがむしゃらに頑張ってください。また4月から9月からよろしくお願ひします とならないことを祈りながら私の教訓をふたつ

あすやろうは 馬鹿野郎

いつやるの たった今でしょ

ありがとうございました。

#### 西田 良一さん(大分県出身)

自立訓練から数えると早いもので4年が過ぎようとしています。この4年弱の期間は私にとって生涯カケガエのないものとなりました。慣れない耳からの学習、衰えていく記憶力との闘い、不条理なセンターでの生活等、時には学習を断念しようかと悩みました。そのような私に対してセンターの皆さんは暖かく声を掛けていただき、時には激励の言葉もいただきました。私にとってそれがどのように心強かったことか。あはきの国家試験に必ず合格し皆様のご恩に報いたいと思います。また、卒業後はあはきに対する情熱を失わず日々精進してすこしでも社会のお役に立てればと念じています。先生方、温かく応援してくれた家族・親戚・友人達に心から感謝するとともに、皆

様方のご健康とご活躍と本センターの発展をお祈りします。ありがとうございました。

#### 藤川 修さん(福岡県出身)

センターでこれまで関わりあった方々にまずは感謝の意を表したいと思います。皆様のお力添えのおかげでここまでくることができました。今後、皆様のご期待に添えるよう一層精進します。在校生の皆様へ。今後、勉強などで辛いことや苦しいことなどたくさんあると思いますが、その生活もあつという間に過ぎていきます。どうせ短い期間なので、楽しく充実したものにしていってください。

#### 宮内 智久さん(福岡県出身)

在校生、新入生のみなさんへ。さあ、怒涛の一年間がはじまります。みなさん、頑張ってください！

#### 山崎 泰志さん(鹿児島県出身)

このセンターで過ごした経験がこれからの人生のかけがえのないスタートになることが今とても嬉しく思います。新しい日々としっかり向き合い、理療師として胸を張って務めたいと思います。3年間本当にありがとうございました。



## 3年B組

### M.Aさん(福岡県出身)

長い学校生活も終わりこれからは、ひとりの社会人として、学校で学んだ事を、バネにしながら、三療師として一生懸命頑張っていく予定です。

### Y.Oさん(福岡県出身)

気が付けばあっという間に3年が過ぎてしまいました。自分に出来ることはなにか自分なりに考え前に踏み出さなければとここに来ました。振り返ってみると勉強に自治会など忙しく少しきつかった時もありましたが、皆さんの明るさと懸命に努力する姿に刺激されて、いつも暖かく指導・支援していただいた職員の方々に支えられて私は前向きにたくさん笑って過ごすことが出来ました。ありがとうございました。卒業後も自分が今より成長出来るよう日々を過ごしていきます。

### S.Sさん(長崎県出身)

とても困難で長い道のりでした。しかし、無駄な時間は1秒も無かったと思います。怠けた1秒、勉強した1秒、遊んだ1秒、苦しんだ1秒。全てが積み重なり、今の自分を形作っていることを実感しています。センター職員、先生方、同級生や、在學生、地域のみなさんなど、多くの人に勉強・生活など、様々な面で相談や手助けをしてもらい感謝しています。自立・社会参加、人と人とのコミュニケーションの難しさや楽しさ。臨床実習では、患者さんの凝りや痛みを少しでも緩和できた喜びと、力不足により、結果が出せなかった悔しさなどを学びました。どのようにすれば、患者さんに満足できる施術を行えるか、少しでもリラックスして、身心の凝りや疲れを取り除けるか、これからも学び、反省し、経験を積み重ねて、自分の治療法を形作りたいと考えています。

### A.Tさん(福岡県出身)

3年間のセンター生活はあっという間でした。入学当初は勉強についていけるか、友人は出来る

か、不安でいっぱいでしたが、そんな不安も周りの職員の方や友人、クラスメイトに支えられ、協力して色々なことを乗り越えていき、3年間とても大切なクラスメイトや友人に出逢うことができたことが私にとって大切な財産となりました。支えて下さった職員の方々とクラスメイトや友人に感謝します。

### D.Tさん(鹿児島県出身)

私にとって、自立訓練を含めた3年半のセンター生活は、大変でしたが充実したものになりました。これから生きていく上での様々な教訓を通して、少しずつ自信が持てるようになりました。指導していただいたセンター関係者の皆様に深く感謝いたします。また、在所生の皆様も、目標に向かって頑張ってください。

### H.Nさん(福岡県出身)

3年間を振り返って長い様で短い年月でありました。苦しかった事も、楽しかった事も、今となっては良き思い出となりました。ここまで頑張ってきたのも、家族・センター関係の方々のおかげだと感謝致しております。また、クラスメイトにも恵まれ在学中を楽しく過ごせました。皆様も体に気をつけて勉学に励んでください。





## 卒業生へのお祝いの言葉

### 岩本 稔（教務課3年A組担当）

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。受験生ということから今年度は肉体的にも精神的にも苦しい一年間だったのではないかと思います。クラス担任として、また理療科教官としてどこまで力になれたかはわかりませんが、これから始まる新しい場所での活躍を期待しております。

### 青柳 達也（教務課3年B組担当）

卒業生の皆様ご卒業おめでとうございます。この場をお借りして一言お祝いを申し上げます。まず虚証の皆様は精微や清気を充分取り入れ、営気や宗気を養ってください。陽虚証の方は、喜按に努めてください。次に、実証の皆様は労倦や抑うつなどによる内傷病に注意し、もし陰虚証になった場合は喜冷に努めてください。これからの活躍を心よりお祈りいたします。

### 濱野 清悟（支援課3年A組担当）

3年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。私は27年4月に他センターから異動してきたばかりで、支援をする立場であるのに、逆にみなさんに助けて頂くことが多くありました。そんな頼

もしいみなさんとお別れするのは寂しくもありません。しかし、3年間の学習の成果を得てそれぞれの道を進まれるみなさんが、より多くの人々の身体と心を癒されることを期待して、大きな拍手を送りたいと思います。お身体に気を付け、大きく羽ばたいてください。

### 名和 宏明（支援課3年B組担当）

ご卒業おめでとうございます。ここにたどり着くまで、様々な険しい道のりを乗り越えてこられたことでしょう。いつも、真剣に前を見ている皆さんとても美しく輝いていました。これまでの全てを糧として、今後は施術者として頑張ってください。

### 自治会長 T.Oさん

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。そして3年間本当にお疲れ様でした。先輩方には勉強を見てもらったり、集団生活の中での相談ごと等色々と面倒を見て頂き、お世話になりました。それぞれの状況の中で励む先輩方の姿にいつも励まされてきました。そんな皆様が卒業されることは寂しくもありませんが、新しい門出を心からお祝い申し上げます。皆様の今後一層のご活躍とご健康をお祈りいたします。

## 卒後研修会・卒後特別研修会

### 卒後研修会

8月2日(日)、当センター本館会議室・実技室において、37回目となる卒後研修会が開催されました。本研修会は同窓会との共催で実施しており、卒業（修了）生54名の参加がありました。今回は、講師に積聚會副会長で成城大蔵鍼灸院院長原オサム先生をお迎えし、「積聚治療入門」をテーマ



に、1時間の講義と3時間の実技の指導を受けました。

講義では先生の豊富な経験を交えつつその概要を分かりやすく、時にユーモアを交えながらご講演いただきました。実技では受講者が16台のベッドに分かれ、助手の方も加わり先生が移動しながら、積聚治療特有の鍼を用いた施術を丁寧にご指導していただきました。また、刺さない鍼（てい鍼）や身近なもの（スプーン・歯ブラシ等）を利用した



実技指導の様子

治療実践の紹介や、手から手への指導を行って下さった先生のご配慮もあり、積聚治療に初めて触れた受講

者が多かったにもかかわらず、みなさん熱心に取り組まれていました。

受講者からの要望もあり、昨年に引き続き、実技場面をビデオで撮り4台のモニター画面で見させていただきました。これからもこうしたニーズを取り入れた研修会運営を行っていきたくと考えております。受講者アンケートでは、「実際に治療してもらい、積聚治療の効果に驚きました。」「積聚治療のように取り込みやすい方法を習得し日常的に使えるようこれからも学び続けていきたいです。」といった感想も寄せられ実のある研修会が実施できましたことをご報告させていただきます。

## 卒後特別研修会



10月17日(土)、18日(日)の両日、当センターを会場に、平成27年度卒後特別研修会が開催されました。テーマを「冷えと痛み その予防と解消法」とし、3名の講師に講演していただきました。

まず、東洋医学ひぐちクリニックの樋口先生の講演では医師の立場から、「冷え」のとらえ方やその具体的な対処法についてご指導いただきました。次に、明治国際医療大学の伊藤先生の講演では「痛み」へのアプローチとして、トリガーポイント療法を中心にご指導いただいております。最後に、みらいクリニックの栢木先生の講演では「足指」のみかたや足の体操法についてご指導いただきました。

期間中、延べ17名(1日目は13名、2日目は14名)の卒業生の参加があり、いずれの講演においても熱心に集中して受講する参加者の様子がみられ、盛況のうちに終了しております。

## 神戸視力障害センターとの親善スポーツ・文化交流会

今年の神戸交流会は台風の影響もあり開催が危ぶまれていたものの、初夏の清々しい天候に恵まれ無事に神戸センターの皆様(利用者5名+職員2名)をお迎えすることができました。親しみ溢れる関西弁に今回の交流がとても楽しい思い出になることを予感しました。

当日に行われたゴールボールと文化交流会。ゴールボールでは気合いの入った福岡チームが圧勝してしまったものの双方の声援が大変賑わい、また来年の対決が楽しみです。文化交流会では地元インディーズの「回旋筋腱バンド」が心に沁みる歌の数々を披露してくれ、なかでもラストソングの「糸」では会場が一体となり、まさしく神戸と福岡の糸が絆となり結び付いた瞬間でした。

翌日はフライングディスクとフロアバレーボールを行い、フロアバレーでは混合チームを編成、神戸チームの「パス行きます!」の声かけに、福岡チームが「誰に?!」と突っ込む爆笑のやり取りがありました。

開催の際、後藤所長のお話で神戸・福岡の交流会は今年で43年、36回目になると聞き驚きまし



神戸センターをお出迎え

た。神戸センターでは現在、クラブ活動などは休止状態にあるようで「福岡は活気があって羨ましい。」とのこと。福岡センターは年間行事も多く、何かと準備が大変だなあと正直なところ思っていたが、こういった交流行事の歴史を知り、そこで生まれる瞬間的な人と人の繋がり温かさに改めて大切なものと気付かされました。





# Eyeあいフェスタ

平成27年11月15日(日)に「さいとぴあ(所在地：福岡市西区)」で、当センター主催の「Eyeあいフェスタ」が開催されました。この「Eyeあいフェスタ」は、「視覚に障害のある方の仕事や生活について視覚障害者ならびに一般市民の理解や知識を深められるよう情報提供すること」を目的に平成23年から開催され、今回が5回目になります。昨年は「ももちパレス(所在地：福岡市早良区)」で開催されましたが、今回は、3回目まで開催されていた「さいとぴあ」に場所を戻しての開催になりました。

内容は、①体験コーナー(盲導犬とのふれあい、マッサージ、目の不自由な人の歩行、視覚障がい者用歩行誘導マット、点字、iPad・iPhone)、②福祉

機器展示(ルーペ、拡大読書器、遮光眼鏡、音声家電、日常生活用具等)、③市民講座(家庭でもできるお灸講座)、④見えない・見えにくい方のための利用相談コーナーでした。

福岡市の方を中心に120名以上の来場者があり、視覚障害者の仕事や生活に便利な用具や支援について知識を深めていただくことができました。

最後に、後援いただいた福岡市・福岡市社会福祉協議会、出展していただいた株式会社ヨネザワ・東海光学株式会社・三菱電機住環境システムズ株式会社・錦城護謨株式会社・九州盲導犬協会の皆様、ご協力ありがとうございました。



日常生活用具の紹介



iPad・iPhone体験

## 自立訓練について — 歩行訓練 —

目の不自由な方の歩行と聞くと、まず白杖を連想するでしょう。白杖には3つの役割があります。そのうちの2つ、「身を守る」「周囲の情報を得る」ことはすぐ思い付きますが、最後に1つ、「周りに知らせる」シンボルとしての役割があるのです。これにより歩行中に援助を受けやすくなり、また自動車等への注意喚起にもなるのです。

実際のところ、この役割のため白杖を所持することは道路を歩行する際の義務と定められています。

当センターの歩行訓練の基本的

な内容は、防御姿勢や方向の取り方を学ぶ「屋内移動」、介助者と共に歩く「介助歩行」、白杖の扱い方を身に付ける「白杖操作技術」、白杖を活用して住宅街・商店街・繁華街等あらゆる場面で安全な移動を行う「屋外歩行」、電車やバスを安全に利用する「公共交通機関の利用」、昼間とは異なる音響の変化や街灯等の手がかり、懐中電灯等の道具を用いた「夜間歩行」となります。そして、その他電子機器等の手段を併用したり、限られた地域や目的地を設定したりと、ニーズに合わせた訓練内容を柔軟に組み立てて実施しています。



## クラブ活動紹介(ゴールボール部)



ゴールボールは1チーム3名で行う対戦形式の視覚障がい者用のスポーツです。元々は第二次世界大戦で目を負傷した軍人のリハビリテーションとして開発されました。

アイシェードという目隠しをして1.25kgの鈴の入ったボールを使用し、鈴の音を手がかりにしながら競技をします。コートは縦18m・横9mで、ゴールは横9m・高さ1.3mのサッカーゴールに似たゴールポストがあり、コートのラインには紐が入れてあり、手で触れることで確認できるようになっています。

当センターでは、月曜日と水曜日に練習をしています。内容は体幹トレーニングやキャッチボール、投球・守備練習などです。参加人数が多い時は

実戦形式で試合も行います。試合の楽しさは、ボールを狙った所にきめたり、あるいは、向かってくるボールを確実におさえられたりするところです。作戦が成就したときには達成感があります。また、当センターの卒業生でロンドンパラリンピック金メダルとアテネパラリンピックで銅メダルを取得した浦田選手、小宮選手や工藤選手と一緒に練習ができたりアドバイスをいただいたりします。月に1回、OBの方や他センターの方と全体練習を行い交流することもあります。

立ったり座ったりを繰り返し、身体全体でボールを止めるため過酷な運動量になります。

運動不足の方やウエストラインが気になる方、興味のある方は是非体育館にお集まりください。



2015 福岡ゴールボール大会

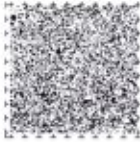
## センターに関するQ&A

**Q:** 就労移行支援(養成施設)や自立訓練(機能訓練)を利用したいと考えています。申請から利用開始の期間はどの程度かかるのでしょうか?

**A:** まず、地域の相談支援事業所へ出向かれて、視力障害センターを利用したい旨の相談してください。同時進行的に市区町村の福祉担当者及び本センター入所担当者にも利用の意思を示してください。次に相談支援事業所の担当者とサービス等利用計画(案)を速やかに作成、市区町村の審議会で検討後、サービスの支給決

定がなされ利用開始となります。市区町村の審議会は、月に一度しか開催されない場合があります、タイミングが合わないと2ヶ月間程度利用開始までの期間がかかります。手続が円滑に進行すると、申請から1ヶ月程度で利用開始となります。申請の意思が固まったら、①相談支援事業所②市区町村③本センターの3ヶ所に同時に相談していただくことが、短期間での手続きのコツと言えます。





# 利用者募集

## 1 当センターが提供する施設障害福祉サービス

サービス内容	対象者	定員	利用期間	訓練内容
自立訓練 (機能訓練)	視覚に障害のある方で、施設利用について市区町村から「障害福祉サービス受給者証」の交付を受けた方	10名	18ヶ月以内 *各訓練の評価結果と本人の意向を踏まえて期間を決めます。	歩行訓練、点字訓練、ICT訓練、日常生活訓練(身辺処理・調理等)、スポーツ訓練、視覚的補助具の紹介、教養
就労移行支援 (養成施設)	視覚に障害のある方で、施設利用について市区町村から「障害福祉サービス受給者証」の交付を受けた18歳以上で次の①又は②に該当する方。 ①学校教育法第90条第1項の大学に入学することができる方。 ②当センターが実施する「個別利用資格審査」によって、高等学校を卒業した方と同等以上の学力があると認められた方。	60名	3年	あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の国家試験受験資格取得に向けた学習、進路支援等
施設入所支援	上記の2サービスの利用者で、通所が困難な方	70名	上記の2サービス提供期間内	宿舎の提供、食事の提供、生活支援

## 2 利用開始日と申込締切日

サービス内容	利用開始日	応募締切日	利用者選考日
自立訓練 (機能訓練)	随時 (原則として月曜日)	随時受付	書類審査のみ
就労移行支援 (養成施設)	毎年度 4月上旬	年3回 (前年度の7月・10月・2月) 詳細はお問い合わせください。	年3回 (前年度の9月・12月・3月) 詳細はお問い合わせください。

(※) 利用定員に達し次第、募集は締め切ります。

## 3 利用に関するお問い合わせ

利用料やサービス内容についてはお気軽にお問い合わせください。当センター紹介ビデオ (DVD) の送付を希望される方は、お知らせください。

電話

092-807-2844 (支援課直通)

092-806-1361 (代表)

Eメール

shienka-fukuoka@rehab.go.jp



## 編集後記

### 編集委員 (利用者)

ご卒業おめでとうございます。先輩方は私にとって、とても頼りになる心強い存在でした。何事にも親身になって対応して下さったこと、これからも決して忘れません。本当にありがとうございました。皆様の、さらなるご活躍とご健勝を心よりお祈りいたします。

### 編集委員 (利用者)

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。3年間の大変な勉強生活を終えられた努力と忍耐力には尊敬と同時に、自分自身も先輩達に見習いたいと思います。視力障害だけに関わらずご苦勞があったらと思うのですが、在校生一同も先輩達に習って、日々精進していきたいと思っています。あはき師として、皆が一丸となって、人々を癒して、励ましていかれようように応援しています。